

生活交通ネットワーク計画【地域内フィーダー系統確保維持事業】(案)

(策定年月日) 平成〇年〇月〇日

(協議会名称) 中城村地域公共交通協議会

0. 生活交通ネットワーク計画の名称

中城村生活交通ネットワーク計画 護佐丸バス運行事業

1. 地域公共交通確保維持事業に係る目的・必要性

現在の中城村の公共交通環境は、民間バス事業者による路線バスの運行および主に村西側の台地地区の小中学生を対象とした通学バスの運行等、村民の移動手段の確保に向けた施策等を展開している。

しかし、これら公共交通の発達は十分でなく、特に路線バスは本村と村外を結ぶ路線として設定されており、村内における移動には不便な状況にある。特に傾斜度が高く地形的に分断されている村東側の平坦地区と西側の台地地区間を結ぶ路線の確保や、平坦地区の北浜・南浜地区、台地地区の登又・新垣・北上原地区などの公共交通空白地域における村内移動手段の確保、村内児童生徒の通学手段の確保が課題となっている。

このような状況やこれまでの調査等を踏まえ、「交通弱者が、便利で利用しやすい公共交通体系を構築し、健やかに暮らせる環境の創出」を目指すことを基本目標に、高齢者をはじめとする交通弱者の村内移動の円滑化及び路線バスとの接続による行動範囲の拡大と、平坦地区北端、南端、公共交通空白地域から通学する小中学生や近隣市町村へ通学する高校生の通学手段を担う中城村コミュニティバス「護佐丸バス」運行の確保・維持するため、本計画を策定する。

2. 地域公共交通確保維持事業の定量的な目標・効果

(1) 事業の目標

●年間利用者数の目標

	伊集普天間線	久場琉大線	伊集回り線	久場回り線	合計
H27年度	約3,200人	約6,500人	約8,000人	約8,700人	約26,400人
H28年度	約3,600人	約6,900人	約8,000人	約8,700人	約27,300人
H29年度	約4,100人	約7,400人	約8,000人	約8,700人	約28,200人
H26年度実績	6.8人/日	29.6人/日	18.7人/日	22.7人/日	71.7人/日

※H26年度実績…実証運行(有償)期間の日平均利用数、実証運行の伊集回り線と久場回り線のルートは生活交通ネットワーク計画のものと多少異なる。

※伊集普天間線…小学生利用数の増加(無償期間の5割)、高校生利用数の増加(有償期間のピーク値に高校3年生の利用を加味)を見込み、年度毎平均2.5人/日増加と想定して算出

※久場琉大線…高校生利用数の増加(普天間高校生と同等の利用数)を見込み、年度毎平均2.5人/日増加と想定して算出

※伊集回り線、久場回り線…回数券発行による一般利用数の増加(有償期間のピーク値)と高齢者の利用の増加を見込み算出

●利用者満足度の向上(H27~H29年度)…満足度5点満点中4.0点以上

※H26年度実績…3.7点

(2) 事業の効果

- ・ 交通弱者の通院、買物等の外出支援による生活水準の維持
- ・ 近隣市町村の高校へ通う高校生の通学支援
- ・ 公共交通ネットワークの充実に伴う地域、住民活動の活性化
- ・ 村在住小中学生の通学支援

3. 地域公共交通確保維持事業により運行を確保・維持する運行系統の概要及び運行予定者

(1) 運行系統の概要

ア 運行ルート

- ①伊集普天間線：伊集バス停～北浜・南浜～津覇バス停～奥間（②との乗継）～新垣・登又～普天間りうぼう
- ②久場琉大線：久場（ひが皮膚科クリニック前）～中城小学校～奥間（①との乗継）～琉球大学・琉球大学附属小中学校
- ③伊集回り線：ハートライフクリニック（西原町）～北浜・南浜～奥間～吉の浦会館～村役場～中城モール～老人福祉センター～登又～普天間りうぼう～新垣・北上原～琉球大学～中城サンエー～ハートライフクリニック
- ④久場回り線：中城モール～村役場～吉の浦会館～奥間～北浜・南浜～ハートライフクリニック～琉球大学～北上原・新垣・登又～普天間りうぼう～老人福祉センター～中城モール

※③、④はほぼ同様のルートで逆回りとなる。

イ 運行日・時間帯

- ①伊集普天間線、②久場琉大線
 - ・ 月曜～金曜日の週5日（祝日、1月1日～3日、学校の長期休み期間は運休）
 - ・ 午前7時～午前8時半、各2便
- ③伊集回り線、④久場回り線
 - ・ 月曜～日曜日の週7日（1月1日～3日は運休）
 - ・ 午前9時～午後6時、各5便

ウ 運賃

- 料金：小学生50円、中学生・65歳以上・障がい者100円、一般200円
- ※小学生以下の幼児の運賃は、小学生以上の方が一緒に乗る場合は小学生以上の方1人につき幼児1人は無料、2人目からは小学生料金が必要とする。なお、幼児のみで乗る場合は小学生料金とする。
- 回数券の発行

(2) 運行予定者

- 那覇バス株式会社…①伊集普天間線、②久場琉大線、③伊集回り線
- 東陽バス株式会社…②久場琉大線、①伊集普天間線、④久場回り線

地域公共交通確保維持改善事業費補助金交付要綱「表1」を添付

4. 地域公共交通確保維持事業に要する費用の総額、負担者及びその負担額

(1) 費用の総額及び収支率 (単位:千円または%)

	H27.10.01～ H28.09.30	H28.10.01～ H29.09.30	H29.10.01～ H30.09.30
経常経費(a)	26,273	26,206	26,206
補助対象経常経費(b)	15,516	15,302	15,136
経常収益(c)	3,086	3,252	3,419
経常損益(a-c)	23,187	22,954	22,787
収支率(c÷a×100)	11.7%	12.4%	13.0%
負担額 (a-(b-c)/2)	15,429	15,302	15,219

(2) 負担者

●中城村

※なお、中城村から運行事業者への補助金額については、運行収入及び国庫補助金を運行経費から差し引いた差額分を負担することとしている。

地域公共交通確保維持改善事業費補助金交付要綱「表2」を添付 ※事業者と調整後作成

5. 補助金の交付を受けようとする補助対象事業者の名称

那覇バス株式会社、東陽バス株式会社

6. 補助を受けようとする手続きに係る利用状況等の継続的な測定方法【活性化法定協議会を補助対象事業者とする場合のみ】

該当なし

7. 別表4の補助事業の基準二に基づき、協議会が平日1日当たりの運行回数が3回以上で足りると認めた系統の概要【地域間幹線系統のみ】

該当なし

8. 別表4の補助事業の基準ハに基づき、協議会が「広域行政圏の中心市町村に準ずる生活基盤が整備されている」認めた市町村の一覧【地域間幹線系統のみ】

該当なし

9. 地域公共交通確保維持改善事業を行う地域の概要【地域内フィーダー系統のみ】

地域公共交通確保維持改善事業費補助金交付要綱「表5」を添付

10. 車両の取得に係る目的・必要性【車両減価償却費等国庫補助金を受けようとする場合のみ】

該当なし

11. 車両の取得に係る定量的な目標・効果【車両減価償却費等国庫補助金を受けようとする場合のみ】

該当なし

12. 車両の取得計画の概要及び車両の取得を行う事業者、要する費用の総額、負担者及びその負担額【車両減価償却費等国庫補助金を受けようとする場合のみ】

該当なし

13. 老朽更新の代替による費用の削減等による地域公共交通確保維持事業における収支の改善に係る計画（車両の代替による費用削減等の内容、代替車両を活用した利用促進策）【**公有民営方式車両購入費国庫補助金を受けようとする場合のみ**】

該当なし

14. 協議会の開催状況と主な議論

中城村地域公共交通協議会

●平成 25 年度

- ・H25.7 月（第 1 回） 協議会設立、事業内容について協議
- ・H25.10 月（第 2 回） 地域公共交通の課題・改善の方向性、「護佐丸バス」実証調査運行計画について協議
- ・H26.2 月（第 3 回） 実証調査結果報告及び生活交通ネットワーク計画策定に向けた協議
- ・H26.3 月（第 4 回） 生活交通ネットワーク計画策定に向けた調査報告書のとりまとめ

●平成 26 年度

- ・H26.9 月（第 1 回） 地域公共交通としてコミュニティバス「護佐丸バス」とデマンドタクシー「護佐丸タクシー」の運行について協議
- ・H26.10 月（第 2 回） 「護佐丸バス」及び「護佐丸タクシー」の実証運行計画について協議、合意
- ・H27.3 月（第 3 回） 実証運行結果報告及び生活交通ネットワーク計画策定（案）について協議

15. 利用者等の意見の反映

地域住民や利用者の意見については、下記方法で集約、整理し、計画や実証運行に反映させている。

①村内一周バスについての村民意向アンケート調査（H24年度）

- ・全世帯（6,547世帯）配布、回収率約11%

②施設利用者アンケート調査（H25年度）

- ・交通弱者の利用が多いと考えられる施設来訪者の、移動手段の実態把握と地域公共交通利用意向を把握するため実施。

調査実施施設	回収数
中城サンエー	直接聞き取り1日間 59件
ハートライフ病院	直接聞き取り1日間 16件
琉大病院	直接聞き取り1日間 10件
老人福祉センター（3クラブ）	3クラブ活動へ訪問し聞き取り 39件

③高校生アンケート調査（H25年度）

- ・近隣市町に所在する3高校（普天間・中部商業・西原）の村内在住高校生を対象に、移動手段の実態把握と地域公共交通利用意向を把握するため実施。回収率約43%。

④実証調査運行利用者アンケート調査（H25年度）

- ・実験運行の利用実態と今後の利用意向を把握するため実施。
- ・利用者乗車の際調査票を直接配布、郵送等で回収。回収率約45%。

⑤地域懇談会等における高齢者デマンド利用意向アンケート調査（H26年度）

- ・デマンド交通導入に向け、高齢者の利用意向を把握するため実施。
- ・地域懇談会等に赴き、参加者へ直接配布・回収。回収数142件。

⑥実証運行利用者アンケート調査（H26年度）

- ・実証運行の利用実態、満足度等を把握するため実施。

アンケート種別	回収数
車内留置きビンゴ式アンケート調査	・護佐丸バス … ・護佐丸タクシー…
護佐丸バス利用者意向調査	27件（回収率約24%）
護佐丸タクシー利用者意向調査	42件（回収率約50%）

⑦村内在住高生意向調査（H26年度）

- ・村内在住高校生（無作為抽出3,000人）に対し、公共交通での通学実態及び護佐丸バス運賃の料金設定への意向を把握するため実施。

16. 協議会メンバーの構成員

内閣府	沖縄総合事務局運輸部企画室 室長
〃	沖縄総合事務局運輸部陸上交通課 課長
〃	沖縄総合事務局南部国道事務所 副所長
沖縄県	企画部交通政策課長
〃	土木建築部中部土木事務所 所長
宜野湾警察署	交通課 課長
那覇バス株式会社	業務部長
東陽バス株式会社	総務部運輸課長
一般社団法人沖縄県バス協会	専務理事
合名会社共友タクシー	運行管理者

一般社団法人沖縄県ハイヤー・タクシー協会	教育指導委員長
有識者	琉球大学工学部環境建設工学科 助教
住民代表	中城村PTA 連合会長、自治会長会長、中城村老人クラブ連合会長、住民代表 4 名

【本計画に関する担当者・連絡先】

(住 所) 中城村字当間 176 番地
 (所 属) 中城村役場 企画課
 (氏 名) 金城 勉
 (電 話) (098) 895-2131
 (e-mail) tutomu-k@vill.nakagusuku.lg.jp

表1 地域公共交通確保維持事業により運行を確保・維持する運行システムの概要及び運行予定者

(平成27～29年度)

都道府県 (市区町村)	運行予定者名	運行系統名	地域間幹線/ 地域内フィー ダーの別	確保維持事業に要す る 国庫補助額 (千円)	幹線 特例 措置	地域内フィーダー系統の基準適合 (別表6「補助対象の基準」)			
						乗合バス型/デマ ンド型の別	基準口で 該当する 要件	接続する補助対象地域間幹線系統等と 接続確保策	基準二で 該当する 要件
沖縄県中城村	東陽バス株式会社	(1)伊集普天間線①	地域内フィー ダー	平成27年度: 平成28年度: 平成29年度:		乗合バス型	②(1)	系統:27系統屋慶名線 接続:上記路線「普天間市場入口」停留所と 「普天間りうぼう」停留所が近接	①(平成 28・29年 度は③)
	那覇バス株式会社	(2)伊集普天間線②	地域内フィー ダー	平成27年度: 平成28年度: 平成29年度:		乗合バス型	②(1)	系統:27系統屋慶名線 接続:上記路線「普天間市場入口」停留所と 「普天間りうぼう」停留所が近接	①(平成 28・29年 度は③)
	那覇バス株式会社	(3)久場琉大線①	地域内フィー ダー	平成27年度: 平成28年度: 平成29年度:		乗合バス型	②(1)	系統:111系統高速バス 接続:上記路線「琉大入口」停留所と「琉大 北口」停留所が近接	①(平成 28・29年 度は③)
	東陽バス株式会社	(4)久場琉大線②	地域内フィー ダー	平成27年度: 平成28年度: 平成29年度:		乗合バス型	②(1)	系統:111系統高速バス 接続:上記路線「琉大入口」停留所と「琉大 北口」停留所が近接	①(平成 28・29年 度は③)
	那覇バス株式会社	(5)伊集回り線	地域内フィー ダー	平成27年度: 平成28年度: 平成29年度:		乗合バス型	②(1)	系統:27系統屋慶名線 接続:上記路線「普天間市場入口」停留所と 「普天間りうぼう」停留所が近接	①(平成 28・29年 度は③)
	東陽バス株式会社	(6)久場回り線	地域内フィー ダー	平成27年度: 平成28年度: 平成29年度:		乗合バス型	②(1)	系統:27系統屋慶名線 接続:上記路線「普天間市場入口」停留所と 「普天間りうぼう」停留所が近接	①(平成 28・29年 度は③)
		(7)							
合 計									

(注)

1. 「地域内フィーダー系統の基準適合」は地域内フィーダー系統を記載する場合のみ記載する。
2. 「接続する補助対象地域間幹線系統等と接続確保策」には、地域内フィーダー系統が接続する補助対象地域間幹線系統又は地域間交通ネットワークとどのように接続を確保するか について記載する。
3. 本表に記載する運行予定系統を示した地図を添付すること。

表2 地域公共交通確保維持事業に要する費用の総額、負担者及びその負担額(地域内フィーダー系統【乗合バス型(路線定期・路線不定期)運行】用)

事業者名：東陽バス株式会社

平成27年度

1. 申請事業者の概要

補助対象期間の 前々年度(基準期間※)の損益状況	乗 合 バ ス 事 業 ・ 自 家 用 有 償 旅 客 運 送					
	営業収益	0千円	営業外収益	0千円	経常収益(イ)	0千円
	営業費用	0千円	営業外費用	0千円	経常費用(ロ)	0千円
補助対象期間の前々年度の実車走行キロ(ハ)	0千円	営業外損益	0千円	経常損益	0千円	0.00%
		0.0 km				

基準期間の前年度の損益状況	乗 合 バ ス 事 業 ・ 自 家 用 有 償 旅 客 運 送					
	営業収益	0千円	営業外収益	0千円	経常収益(イ')	0千円
	営業費用	0千円	営業外費用	0千円	経常費用(ロ')	0千円
基準期間の前年度の実車走行キロ(ハ')	0千円	営業外損益	0千円	経常損益	0千円	0.00%
		0.0 km				

基準期間の前々年度の損益状況	乗 合 バ ス 事 業 ・ 自 家 用 有 償 旅 客 運 送					
	営業収益	0千円	営業外収益	0千円	経常収益(イ'')	千円
	営業費用	0千円	営業外費用	0千円	経常費用(ロ'')	千円
基準期間の前々年度の実車走行キロ(ハ'')	0千円	営業外損益	0千円	経常損益	千円	0.00%
		0.0 km				

(補助対象事業者の「基準期間※を最終年度とする連続した過去3年間」における実車走行キロ当たり経常費用等)

補助ブロック名	補助対象事業者の実車走行 キロ当たり経常費用 (基準期間の前々年度) ロ''÷ハ'' = a	補助対象事業者の実車走行 キロ当たり経常費用 (基準期間の前年度) ロ'÷ハ' = b	補助対象事業者の実車走行 キロ当たり経常費用 (基準期間) ロ÷ハ = c	平均増減率 (((b÷a)-1)+((c÷b)-1))÷2 = d
沖縄	円 銭	円 銭	円 銭	%
	円 銭	円 銭	円 銭	%

※「基準期間」とは、補助対象期間の前々年度の補助対象期間をいう。

2. キロ当たり補助対象経常費用及び収益

補助ブロック名	補助対象事業者の実車走行 キロ当たり経常費用 c × (1+(d÷2))2 = ニ	地域キロ当たり 標準経常費用 ホ	キロ当たり経常費用 ニとホのいずれか少ない額 ヘ	キロ当たり経常収益 イ÷ハ
沖縄	297円 94銭	196円 41銭	196円 41銭	円 銭
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭

3. 補助対象系統ごとに要する費用、負担者とその負担割合

補助ブロッ ク名	申請 番号	運行系統名	運行系統			計画運行日数	計画運行回数	系統キロ程 チ		補助ブロック外 乗入部分のキロ程 リ		同一補助ブロック 市区町村外乗入 部分のキロ程 ヌ		補助ブロック外乗り入れ部分 及び同一 補助ブロック市区町 村外乗り入れ部分 以外のキロ程の比率 (チー(リ+ヌ))÷チ=ル	計画実車走行キロ ヲ
			起点	主な 経由地	終 点			往 . Km 復 . Km	(平均) Km	往 . Km 復 . Km	(平均) Km	往 . Km 復 . Km	(平均) Km		
沖縄	1	伊集普天間線①	ハートライフ クリニック	北浜-新垣	普天間	175日	175回	往 . Km 復 . Km	(平均) 8.6 Km	往 . Km 復 . Km	(平均) Km	往 . Km 復 . Km	(平均) Km	%	1,505.0 km
	4	久場琉大線②	久場	役場前-琉大東口	中部商業高 校前	175日	175回	往 . Km 復 . Km	(平均) 8.4 Km	往 . Km 復 . Km	(平均) Km	往 . Km 復 . Km	(平均) Km	%	1,470.0 km
	6	久場回り線	久場	吉の浦会館-南上原-普 天間	久場	366日	1,830回	往 . Km 復 . Km	(平均) 23.1 Km	往 . Km 復 . Km	(平均) Km	往 . Km 復 . Km	(平均) Km	%	42,273.0 km
合計		系統				日	回	往 . Km 復 . Km	Km	往 . Km 復 . Km	Km	往 . Km 復 . Km	Km	%	km

補助ブロッ ク名	申請 番号	補助対象経常費用の見込額 ヘ×ヲ以下の額:ワ	補助対象系統のキロ当たり 経常収益 (ノの額) ト	補助対象系統の経常収 益の見込額 ト×ヲ以上の額:カ	補助対象経常費用から経常収益を控除し た額 ワ-カ=ヨ	ヨのうち補助ブ ロック外乗入部 分及 び同一補助 ブロック市区町 村外乗 入部分以 外に係るもの ヨ×ル=ソ	補助対象経費 ツ	補助対象経費の1/2 ツ×1/2=ネ	国庫補助上限額 ナ	国庫補助金 内定申請額 (ネ又はナのうちいず れか少 ないほうの額) ラ
沖縄	1	295,597 円	円 銭	49,041 円	246,556 円	円	247 千円	123 千円		
	4	288,723 円	円 銭	47,900 円	240,823 円	円	241 千円	120 千円		
	6	8,302,840 円	円 銭	1,377,473 円	6,925,367 円	円	6,925 千円	3,463 千円		
合計		8,887,160 円	円 銭	1,474,414 円	7,412,746 円	円	7,413 千円	3,706 千円	千円	3,706 千円

補助ブロッ ク名	申請 番号	経常費用から経常収益を控除した額 ニ×ヲ-カ=ム	損失額から国 庫補助額を控 除した額 ム-ラ=ウ	ウの負担者とその負担割合									
				都道府県		市区町村		その他の者		事業者自己負担		「その他の者」の具 体的概 要	
				負担額	負担割合	負担額	負担割合	負担額	負担割合	負担額	負担割合		
沖縄	1	399,359 円											
	4	390,072 円											
	6	11,217,342 円											
合計		12,006,772 円	8,300,400 円	円	%	8,300,400 円	%	円	%	円	%		

(補助対象系統のキロ当たり経常収益の算定表)

補助ブロック名	申請番号	補助対象系統の実車走行キロ当たり経常収益 (基準期間の前々年度) e	補助対象系統の実車走行キロ当たり経常収益 (基準期間の前年度) f	補助対象系統の実車走行キロ当たり経常収益 (基準期間※) g	平均増減率 (((f÷e)-1)+((g÷f)-1)) ÷2 = h	補助対象系統の実車走行キロ当たり経常収益 g × (1+(h÷2))2 = ノ
		円 銭	円 銭	円 銭	%	
		円 銭	円 銭	円 銭	%	
		円 銭	円 銭	円 銭	%	
		円 銭	円 銭	円 銭	%	

表2 地域公共交通確保維持事業に要する費用の総額、負担者及びその負担額(地域内フィーダー系統【乗合バス型(路線定期・路線不定期)運行】用)

事業者名：那覇バス株式会社

平成27年度

1. 申請事業者の概要

		乗 合 バ ス 事 業 ・ 自 家 用 有 償 旅 客 運 送				
補助対象期間の前々年度(基準期間※)の損益状況	営業収益	0千円	営業外収益	0千円	経常収益(イ)	0千円
	営業費用	0千円	営業外費用	0千円	経常費用(ロ)	0千円
	営業損益	0千円	営業外損益	0千円	経常損益	0千円
補助対象期間の前々年度の実車走行キロ(ハ)		0.0 km		経常収支率		0.00%

		乗 合 バ ス 事 業 ・ 自 家 用 有 償 旅 客 運 送				
基準期間の前年度の損益状況	営業収益	0千円	営業外収益	0千円	経常収益(イ')	0千円
	営業費用	0千円	営業外費用	0千円	経常費用(ロ')	0千円
	営業損益	0千円	営業外損益	0千円	経常損益	0千円
基準期間の前年度の実車走行キロ(ハ')		0.0 km		経常収支率		0.00%

		乗 合 バ ス 事 業 ・ 自 家 用 有 償 旅 客 運 送				
基準期間の前々年度の損益状況	営業収益	0千円	営業外収益	0千円	経常収益(イ'')	千円
	営業費用	0千円	営業外費用	0千円	経常費用(ロ'')	千円
	営業損益	0千円	営業外損益	0千円	経常損益	千円
基準期間の前々年度の実車走行キロ(ハ'')		0.0 km		経常収支率		0.00%

(補助対象事業者の「基準期間※を最終年度とする連続した過去3年間」における実車走行キロ当たり経常費用等)

補助ブロック名	補助対象事業者の実車走行 キロ当たり経常費用 (基準期間の前々年度) ロ'÷ハ'' = a	補助対象事業者の実車走行 キロ当たり経常費用 (基準期間の前年度) ロ''÷ハ' = b	補助対象事業者の実車走行 キロ当たり経常費用 (基準期間) ロ÷ハ = c	平均増減率 $\frac{((b÷a)-1)+((c÷b)-1)}{2} = d$
沖縄	円 銭	円 銭	円 銭	%
	円 銭	円 銭	円 銭	%

※「基準期間」とは、補助対象期間の前々年度の補助対象期間をいう。

2. キロ当たり補助対象経常費用及び収益

補助ブロック名	補助対象事業者の実車走行 キロ当たり経常費用 $c \times (1 + (d \div 2)) = \text{ニ}$	地域キロ当たり 標準経常費用 ホ	キロ当たり経常費用 ニとホのいずれか少ない額へ	キロ当たり経常収益 イ÷ハ
沖縄	258円 60銭	196円 41銭	196円 41銭	円 銭
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭

3. 補助対象系統ごとに要する費用、負担者とその負担割合

補助ブロッ ク名	申請 番号	運行系統名	運行系統			計画運行日数	計画運行回数	系統キロ程 チ		補助ブロック外 乗入部分のキロ程 リ		同一補助ブロック 市区町村外乗入 部分のキロ程 ヌ		補助ブロック外乗り入れ部分 及び同一 補助ブロック市区町 村外乗り入れ部分 以外のキ ロ程の比率 (チー(リ+ヌ))÷チ=ル	計画実車走行キロ ヲ
			起点	主な 経由地	終 点			往 . Km 復 . Km	(平均) Km	往 . Km 復 . Km	(平均) Km	往 . Km 復 . Km	(平均) Km		
沖縄	2	伊集普天間線②	ハートライフ クリニック	北浜-新垣	普天間	175日	175回	往 . Km 復 . Km	(平均) 8.6 Km	往 . Km 復 . Km	(平均) Km	往 . Km 復 . Km	(平均) Km	%	1,505.0 km
	3	久場琉大線①	久場	役場前-琉大東口	琉大北口	175日	175回	往 . Km 復 . Km	(平均) 7.4 Km	往 . Km 復 . Km	(平均) Km	往 . Km 復 . Km	(平均) Km	%	1,295.0 km
	5	伊集回り線	伊集	吉の浦会館-普天間-南 上原	伊集	366日	1,830回	往 . Km 復 . Km	(平均) 25.5 Km	往 . Km 復 . Km	(平均) Km	往 . Km 復 . Km	(平均) Km	%	46,665.0 km
合計		系統				日	回	往 . Km 復 . Km	Km	往 . Km 復 . Km	Km	往 . Km 復 . Km	Km	%	km

補助ブロッ ク名	申請 番号	補助対象経常費用の見込額 ヘ×ラ以下の 額:ワ	補助対象系統のキロ当たり 経常収益 (ノの額) ト	補助対象系統の経常収 益の見込額 ト×ラ以上の 額:カ	補助対象経常費用から経常収益を控除し た額 ワ-カ=ヨ	ヨのうち補助ブ ロック外乗入部 分及 び同一補助 ブロック市区町 村外乗 入部分以 外に係るもの ヨ×ル=ソ	補助対象経費 ツ	補助対象経費の1/2 ツ×1/2=ネ	国庫補助上限額 ナ	国庫補助金 内定申請額 (ネ又はナのうちいず れか少 ないほうの額) ラ
沖縄	2	295,597 円	円 銭	49,041 円	246,556 円	円	247 千円	123 千円		
	3	254,351 円	円 銭	42,198 円	212,153 円	円	212 千円	106 千円		
	5	9,165,473 円	円 銭	1,520,588 円	7,644,885 円	円	7,645 千円	3,822 千円		
合計		9,715,421 円	円 銭	1,611,827 円	8,103,594 円	円	8,104 千円	4,052 千円	千円	4,052 千円

補助ブロッ ク名	申請 番号	経常費用から経常収益を控除した額 ニ×ラ-カ=ム	損失額から国 庫補助額を控 除した額 ム-ラ=ウ	ウの負担者とその負担割合									
				都道府県		市区町村		その他の者		事業者自己負担		「その他の者」の具 体的概 要	
				負担額	負担割合	負担額	負担割合	負担額	負担割合	負担額	負担割合		
沖縄	2	340,160 円											
	3	292,695 円											
	5	10,547,214 円											
合計		11,180,069 円	7,128,272 円			7,128,272 円							

(補助対象系統のキロ当たり経常収益の算定表)

補助ブロック名	申請番号	補助対象系統の実車走行キロ当たり経常収益 (基準期間の前々年度) e	補助対象系統の実車走行キロ当たり経常収益 (基準期間の前年度) f	補助対象系統の実車走行キロ当たり経常収益 (基準期間※) g	平均増減率 $\frac{((f÷e)-1)+((g÷f)-1)}{2} = h$	補助対象系統の実車走行キロ当たり経常収益 $g \times (1 + (h \div 2)) = \text{ノ}$
		円 銭	円 銭	円 銭	%	
		円 銭	円 銭	円 銭	%	
		円 銭	円 銭	円 銭	%	
		円 銭	円 銭	円 銭	%	

表2 地域公共交通確保維持事業に要する費用の総額、負担者及びその負担額(地域内フィーダー系統【乗合バス型(路線定期・路線不定期)運行】用)

事業者名：東陽バス株式会社

平成28年度

1. 申請事業者の概要

		乗 合 バ ス 事 業 ・ 自 家 用 有 償 旅 客 運 送					
補助対象期間の 前々年度(基準期間※)の損益状況	営業収益	0千円	営業外収益	0千円	経常収益(イ)	0千円	
	営業費用	0千円	営業外費用	0千円	経常費用(ロ)	0千円	
	営業損益	0千円	営業外損益	0千円	経常損益	0千円	
補助対象期間の前々年度の実車走行キロ(ハ)		0.0 km		経常収支率		0.00%	
		乗 合 バ ス 事 業 ・ 自 家 用 有 償 旅 客 運 送					
基準期間の前年度の損益状況	営業収益	0千円	営業外収益	0千円	経常収益(イ')	0千円	
	営業費用	0千円	営業外費用	0千円	経常費用(ロ')	0千円	
	営業損益	0千円	営業外損益	0千円	経常損益	0千円	
基準期間の前年度の実車走行キロ(ハ')		0.0 km		経常収支率		0.00%	
		乗 合 バ ス 事 業 ・ 自 家 用 有 償 旅 客 運 送					
基準期間の前々年度の損益状況	営業収益	0千円	営業外収益	0千円	経常収益(イ'')	千円	
	営業費用	0千円	営業外費用	0千円	経常費用(ロ'')	千円	
	営業損益	0千円	営業外損益	0千円	経常損益	千円	
基準期間の前々年度の実車走行キロ(ハ'')		0.0 km		経常収支率		0.00%	

(補助対象事業者の「基準期間※を最終年度とする連続した過去3年間」における実車走行キロ当たり経常費用等)

補助ブロック名	補助対象事業者の実車走行 キロ当たり経常費用 (基準期間の前々年度) $\alpha = a$	補助対象事業者の実車走行 キロ当たり経常費用 (基準期間の前年度) $\alpha' = b$	補助対象事業者の実車走行 キロ当たり経常費用 (基準期間) $\alpha'' = c$	平均増減率 $\frac{((b \div a) - 1) + ((c \div b) - 1)}{2} = d$
沖縄	円 銭	円 銭	円 銭	%
	円 銭	円 銭	円 銭	%

※「基準期間」とは、補助対象期間の前々年度の補助対象期間をいう。

2. キロ当たり補助対象経常費用及び収益

補助ブロック名	補助対象事業者の実車走行 キロ当たり経常費用 $\alpha \times (1 + (d \div 2))2 = \alpha$	地域キロ当たり 標準経常費用 β	キロ当たり経常費用 α と β のいずれか少ない額 α	キロ当たり経常収益 $\alpha \div \alpha$
沖縄	297円 94銭 円 銭	196円 41銭 円 銭	196円 41銭 円 銭	円 銭 円 銭

3. 補助対象系統ごとに要する費用、負担者とその負担割合

補助ブロック名	申請番号	運行系統名	運行系統			計画運行日数	計画運行回数	系統キロ程		補助ブロック外 乗入部分のキロ程		同一補助ブロック 市区町村外乗入 部分のキロ程		補助ブロック外乗り入れ部分 及び同一補助ブロック市区町村外乗り入れ部分 以外のキロ程の比率 (チー(リ+ヌ))÷チニル	計画実車走行キロ
			起点	主な 経由地	終点			往 . Km	(平均) 復 . Km	往 . Km	(平均) 復 . Km	往 . Km	(平均) 復 . Km		
沖縄	1	伊集普天間線①	ハートライフクリニック	北浜-新垣	普天間	175日	175回	往 . Km	(平均) 復 . Km	往 . Km	(平均) 復 . Km	往 . Km	(平均) 復 . Km	%	1,505.0 km
	4	久場琉大線②	久場	役場前-琉大東口	中部商業高校前	175日	175回	往 . Km	(平均) 復 . Km	往 . Km	(平均) 復 . Km	往 . Km	(平均) 復 . Km	%	1,470.0 km
	6	久場回り線	久場	吉の浦会館-南上原-普天間	久場	365日	1,825回	往 . Km	(平均) 復 . Km	往 . Km	(平均) 復 . Km	往 . Km	(平均) 復 . Km	%	42,157.5 km
合計		系統				日	回	往 . Km	復 . Km	往 . Km	復 . Km	往 . Km	復 . Km	%	km

補助ブロック名	申請番号	補助対象経常費用の見込額 $\alpha \times \alpha$ 以下の額:ワ	補助対象系統のキロ当たり 経常収益 (ノの額) ト	補助対象系統の経常収 益の見込額 $\alpha \times \alpha$ 以上の額:カ	補助対象経常費用から経常収益を控除し た額 ワーカ=ヨ	ヨのうち補助ブ ロック外乗入部 分及 び同一補助 ブロック市区町 村外乗 入部分以 外に係るもの $\alpha \times \alpha = \alpha$	補助対象経費 ツ	補助対象経費の1/2 $\alpha \times 1/2 = \alpha$	国庫補助上限額 ナ	国庫補助金 内定申請額 (ネ又はナのうちのい ずれか少 ないほうの額) ラ
沖縄	1	295,597 円	円 銭	51,682 円	243,915 円	円	244 千円	122 千円		
	4	288,723 円	円 銭	50,481 円	238,242 円	円	238 千円	119 千円		
	6	8,280,155 円	円 銭	1,451,676 円	6,828,479 円	円	6,828 千円	3,414 千円		
合計		8,864,474 円	円 銭	1,553,839 円	7,310,635 円	円	7,311 千円	3,655 千円	千円	3,655 千円

補助ブロック名	申請番号	経常費用から経常収益を控除した額 $\alpha \times \alpha - \alpha = \alpha$	損失額から国 庫補助額を控 除した額 $\alpha - \alpha = \alpha$	ウの負担者とその負担割合										
				都道府県		市区町村		その他の者		事業者自己負担		「その他の者」の具 体的概 要		
				負担額	負担割合	負担額	負担割合	負担額	負担割合	負担額	負担割合			
沖縄	1	396,718 円												
	4	387,491 円												
	6	11,108,727 円												
合計		11,892,935 円	8,237,618 円	円	%	8,237,618 円	円	%	円	%	円	%	%	

(補助対象系統のキロ当たり経常収益の算定表)

補助ブロック名	申請番号	補助対象系統の実車走行キロ当たり経常収益 (基準期間の前々年度) e	補助対象系統の実車走行キロ当たり経常収益 (基準期間の前年度) f	補助対象系統の実車走行キロ当たり経常収益 (基準期間※) g	平均増減率 $\frac{(((f \div e) - 1) + ((g \div f) - 1))}{2} = h$	補助対象系統の実車走行キロ当たり経常収益 $g \times (1 + (h \div 2))2 = \alpha$
		円 銭	円 銭	円 銭	%	
		円 銭	円 銭	円 銭	%	
		円 銭	円 銭	円 銭	%	
		円 銭	円 銭	円 銭	%	

表2 地域公共交通確保維持事業に要する費用の総額、負担者及びその負担額(地域内フィーダー系統【乗合バス型(路線定期・路線不定期)運行】用)

事業者名：那覇バス株式会社

平成28年度

1. 申請事業者の概要

		乗 合 バ ス 事 業 ・ 自 家 用 有 償 旅 客 運 送					
補助対象期間の 前々年度(基準期間※)の損益状況	営業収益	0千円	営業外収益	0千円	経常収益(イ)	0千円	
	営業費用	0千円	営業外費用	0千円	経常費用(ロ)	0千円	
	営業損益	0千円	営業外損益	0千円	経常損益	0千円	
補助対象期間の前々年度の実車走行キロ(ハ)		0.0 km		経常収支率		0.00%	
		乗 合 バ ス 事 業 ・ 自 家 用 有 償 旅 客 運 送					
基準期間の前年度の損益状況	営業収益	0千円	営業外収益	0千円	経常収益(イ')	0千円	
	営業費用	0千円	営業外費用	0千円	経常費用(ロ')	0千円	
	営業損益	0千円	営業外損益	0千円	経常損益	0千円	
基準期間の前年度の実車走行キロ(ハ')		0.0 km		経常収支率		0.00%	
		乗 合 バ ス 事 業 ・ 自 家 用 有 償 旅 客 運 送					
基準期間の前々年度の損益状況	営業収益	0千円	営業外収益	0千円	経常収益(イ'')	千円	
	営業費用	0千円	営業外費用	0千円	経常費用(ロ'')	千円	
	営業損益	0千円	営業外損益	0千円	経常損益	千円	
基準期間の前々年度の実車走行キロ(ハ'')		0.0 km		経常収支率		0.00%	

(補助対象事業者の「基準期間※を最終年度とする連続した過去3年間」における実車走行キロ当たり経常費用等)

補助ブロック名	補助対象事業者の実車走行 キロ当たり経常費用 (基準期間の前々年度) $\alpha = a$	補助対象事業者の実車走行 キロ当たり経常費用 (基準期間の前年度) $\alpha' = b$	補助対象事業者の実車走行 キロ当たり経常費用 (基準期間) $\alpha = c$	平均増減率 $\frac{((b \div a) - 1) + ((c \div b) - 1)}{2} = d$
沖縄	円 銭	円 銭	円 銭	%
	円 銭	円 銭	円 銭	%

※「基準期間」とは、補助対象期間の前々年度の補助対象期間をいう。

2. キロ当たり補助対象経常費用及び収益

補助ブロック名	補助対象事業者の実車走行 キロ当たり経常費用 $\alpha \times (1 + (d \div 2))2 = \alpha$	地域キロ当たり 標準経常費用 β	キロ当たり経常費用 二とホのいずれか少ない額 α	キロ当たり経常収益 $\alpha \div \alpha$
沖縄	258円 60銭 円 銭	196円 41銭 円 銭	196円 41銭 円 銭	円 銭 円 銭

3. 補助対象系統ごとに要する費用、負担者とその負担割合

補助ブロック名	申請番号	運行系統名	運行系統			計画運行日数	計画運行回数	系統キロ程		補助ブロック外 乗入部分のキロ程		同一補助ブロック 市区町村外乗入 部分のキロ程		補助ブロック外乗り入れ部分 及び同一補助ブロック市区町村外乗り入れ部分 以外のキロ程の比率 (チー(リ+ヌ))÷チニル	計画実車走行キロ
			起点	主な 経由地	終点			往 . Km	(平均)	往 . Km	(平均)	往 . Km	(平均)		
沖縄	2	伊集普天間線②	ハートライフクリニック	北浜-新垣	普天間	175日	175回	往 . Km	(平均) 8.6 Km	往 . Km	(平均) . Km	往 . Km	(平均) . Km	%	1,505.0 km
	3	久場琉大線①	久場	役場前-琉大東口	琉大北口	175日	175回	往 . Km	(平均) 7.4 Km	往 . Km	(平均) . Km	往 . Km	(平均) . Km	%	1,295.0 km
	5	伊集回り線	伊集	吉の浦会館-普天間-南上原	伊集	365日	1,825回	往 . Km	(平均) 25.5 Km	往 . Km	(平均) . Km	往 . Km	(平均) . Km	%	46,537.5 km
合計		系統				日	回	往 . Km	. Km	往 . Km	. Km	往 . Km	. Km	%	km

補助ブロック名	申請番号	補助対象経常費用の見込額 $\alpha \times \alpha$ 以下の額:ワ	補助対象系統のキロ当たり 経常収益 (ノの額) ト	補助対象系統の経常収 益の見込額 $\alpha \times \alpha$ 以上の額:カ	補助対象経常費用から経常収益を控除し た額 ワーカ=ヨ	ヨのうち補助ブ ロック外乗入部 分及 び同一補助 ブロック市区町 村外乗 入部分以 外に係るもの $\alpha \times \alpha = \alpha$	補助対象経費 ツ	補助対象経費の1/2 $\alpha \times 1/2 = \alpha$	国庫補助上限額 ナ	国庫補助金 内定申請額 (ネ又はナのうちのい ずれか少 ないほうの額) ラ
沖縄	2	295,597 円	円 銭	51,682 円	243,915 円	円	244 千円	122 千円		
	3	254,351 円	円 銭	44,471 円	209,880 円	円	210 千円	105 千円		
	5	9,140,430 円	円 銭	1,602,499 円	7,537,931 円	円	7,538 千円	3,769 千円		
合計		9,690,378 円	円 銭	1,698,652 円	7,991,726 円	円	7,992 千円	3,996 千円	千円	3,996 千円

補助ブロック名	申請番号	経常費用から経常収益を控除した額 $\alpha \times \alpha - \alpha = \alpha$	損失額から国 庫補助額を控 除した額 $\alpha - \alpha = \alpha$	ウの負担者とその負担割合										
				都道府県		市区町村		その他の者		事業者自己負担		「その他の者」の具 体的概 要		
				負担額	負担割合	負担額	負担割合	負担額	負担割合	負担額	負担割合			
沖縄	2	337,519 円												
	3	290,422 円												
	5	10,432,331 円												
合計		11,060,272 円	7,064,408 円		%	7,064,408 円	%	円	%	円	%			

(補助対象系統のキロ当たり経常収益の算定表)

11,060,272	申請番号	補助対象系統の実車走行キロ当たり経常収益 (基準期間の前々年度) e	補助対象系統の実車走行キロ当たり経常収益 (基準期間の前年度) f	補助対象系統の実車走行キロ当たり経常収益 (基準期間※) g	平均増減率 $\frac{(((f \div e) - 1) + ((g \div f) - 1))}{2} = h$	補助対象系統の実車走行キロ当たり経常収益 $g \times (1 + (h \div 2))2 = \alpha$
		円 銭	円 銭	円 銭	%	
		円 銭	円 銭	円 銭	%	
		円 銭	円 銭	円 銭	%	
		円 銭	円 銭	円 銭	%	

表2 地域公共交通確保維持事業に要する費用の総額、負担者及びその負担額(地域内フィーダー系統【乗合バス型(路線定期・路線不定期)運行】用)

事業者名：東陽バス株式会社

平成29年度

1. 申請事業者の概要

		乗 合 バ ス 事 業 ・ 自 家 用 有 償 旅 客 運 送					
補助対象期間の前々年度(基準期間※)の損益状況	営業収益	0千円	営業外収益	0千円	経常収益(イ)	0千円	
	営業費用	0千円	営業外費用	0千円	経常費用(ロ)	0千円	
	営業損益	0千円	営業外損益	0千円	経常損益	0千円	
補助対象期間の前々年度の実車走行キロ(ハ)		0.0 km		経常収支率		0.00%	
		乗 合 バ ス 事 業 ・ 自 家 用 有 償 旅 客 運 送					
基準期間の前年度の損益状況	営業収益	0千円	営業外収益	0千円	経常収益(イ')	0千円	
	営業費用	0千円	営業外費用	0千円	経常費用(ロ')	0千円	
	営業損益	0千円	営業外損益	0千円	経常損益	0千円	
基準期間の前年度の実車走行キロ(ハ')		0.0 km		経常収支率		0.00%	
		乗 合 バ ス 事 業 ・ 自 家 用 有 償 旅 客 運 送					
基準期間の前々年度の損益状況	営業収益	0千円	営業外収益	0千円	経常収益(イ'')	千円	
	営業費用	0千円	営業外費用	0千円	経常費用(ロ'')	千円	
	営業損益	0千円	営業外損益	0千円	経常損益	千円	
基準期間の前々年度の実車走行キロ(ハ'')		0.0 km		経常収支率		0.00%	

(補助対象事業者の「基準期間※を最終年度とする連続した過去3年間」における実車走行キロ当たり経常費用等)

補助ブロック名	補助対象事業者の実車走行 キロ当たり経常費用 (基準期間の前々年度) $\alpha = a$	補助対象事業者の実車走行 キロ当たり経常費用 (基準期間の前年度) $\alpha' = b$	補助対象事業者の実車走行 キロ当たり経常費用 (基準期間) $\alpha'' = c$	平均増減率 $\frac{((b \div a) - 1) + ((c \div b) - 1)}{2} = d$
沖縄	円 銭	円 銭	円 銭	%
	円 銭	円 銭	円 銭	%

※「基準期間」とは、補助対象期間の前々年度の補助対象期間をいう。

2. キロ当たり補助対象経常費用及び収益

補助ブロック名	補助対象事業者の実車走行 キロ当たり経常費用 $\alpha \times (1 + (d \div 2))2 = \alpha$	地域キロ当たり 標準経常費用 β	キロ当たり経常費用 α と β のいずれか少ない額 α	キロ当たり経常収益 $\alpha \div \alpha$
沖縄	297円 94銭 円 銭	196円 41銭 円 銭	196円 41銭 円 銭	円 銭 円 銭

3. 補助対象系統ごとに要する費用、負担者とその負担割合

補助ブロック名	申請番号	運行系統名	運行系統			計画運行日数	計画運行回数	系統キロ程		補助ブロック外 乗入部分のキロ程		同一補助ブロック 市区町村外乗入 部分のキロ程		補助ブロック外乗り入れ部分 及び同一補助ブロック市区町村外乗り入れ部分 以外のキロ程の比率 (チー(リ+ヌ))÷チニル	計画実車走行キロ
			起点	主な 経由地	終点			往 . Km 復 . Km	(平均) Km	往 . Km 復 . Km	(平均) Km	往 . Km 復 . Km	(平均) Km		
沖縄	1	伊集普天間線①	ハートライフクリニック	北浜-新垣	普天間	175日	175回	往 . Km 復 . Km	(平均) 8.6 Km	往 . Km 復 . Km	(平均) Km	往 . Km 復 . Km	(平均) Km	%	1,505.0 km
	4	久場琉大線②	久場	役場前-琉大東口	中部商業高校前	175日	175回	往 . Km 復 . Km	(平均) 8.4 Km	往 . Km 復 . Km	(平均) Km	往 . Km 復 . Km	(平均) Km	%	1,470.0 km
	6	久場回り線	久場	吉の浦会館-南上原-普天間	久場	365日	1,825回	往 . Km 復 . Km	(平均) 23.1 Km	往 . Km 復 . Km	(平均) Km	往 . Km 復 . Km	(平均) Km	%	42,157.5 km
合計		系統				日	回	往 . Km 復 . Km	Km	往 . Km 復 . Km	Km	往 . Km 復 . Km	Km	%	km

補助ブロック名	申請番号	補助対象経常費用の見込額 $\alpha \times \alpha$ 以下の額:ワ	補助対象系統のキロ当たり 経常収益 (ノの額) ト	補助対象系統の経常収益の見込額 $\alpha \times \alpha$ 以上の額:カ	補助対象経常費用から経常収益を控除した額 ワーカ=ヨ	ヨのうち補助ブロック外乗入部分及び同一補助ブロック市区町村外乗入部分以外に係るもの $\alpha \times \alpha = \alpha$	補助対象経費 ツ	補助対象経費の1/2 $\alpha \times 1/2 = \alpha$	国庫補助上限額 ナ	国庫補助金 内定申請額 (ネ又はナのうちのいずれか少ないほうの額) ラ
沖縄	1	295,597 円	円 銭	54,324 円	241,273 円	円	241 千円	121 千円		
	4	288,723 円	円 銭	53,061 円	235,662 円	円	236 千円	118 千円		
	6	8,280,155 円	円 銭	1,525,878 円	6,754,277 円	円	6,754 千円	3,377 千円		
合計		8,864,474 円	円 銭	1,633,263 円	7,231,211 円	円	7,231 千円	3,616 千円	千円	3,616 千円

補助ブロック名	申請番号	経常費用から経常収益を控除した額 $\alpha \times \alpha - \alpha = \alpha$	損失額から国庫補助額を控除した額 $\alpha - \alpha = \alpha$	ウの負担者とその負担割合										
				都道府県		市区町村		その他の者		事業者自己負担		「その他の者」の具体的概要		
				負担額	負担割合	負担額	負担割合	負担額	負担割合	負担額	負担割合			
沖縄	1	394,076 円												
	4	384,911 円												
	6	11,034,525 円												
合計		11,813,511 円	8,197,906 円	円	%	8,197,906 円	%	円	%	円	%			

(補助対象系統のキロ当たり経常収益の算定表)

補助ブロック名	申請番号	補助対象系統の実車走行キロ当たり経常収益 (基準期間の前々年度) e	補助対象系統の実車走行キロ当たり経常収益 (基準期間の前年度) f	補助対象系統の実車走行キロ当たり経常収益 (基準期間※) g	平均増減率 $\frac{(((f \div e) - 1) + ((g \div f) - 1))}{2} = h$	補助対象系統の実車走行キロ当たり経常収益 $g \times (1 + (h \div 2))2 = \alpha$
		円 銭	円 銭	円 銭	%	
		円 銭	円 銭	円 銭	%	
		円 銭	円 銭	円 銭	%	
		円 銭	円 銭	円 銭	%	

表2 地域公共交通確保維持事業に要する費用の総額、負担者及びその負担額(地域内フィーダー系統【乗合バス型(路線定期・路線不定期)運行】用)

事業者名：那覇バス株式会社

平成29年度

1. 申請事業者の概要

		乗 合 バ ス 事 業 ・ 自 家 用 有 償 旅 客 運 送					
補助対象期間の前々年度(基準期間※)の損益状況	営業収益	0 千円	営業外収益	0 千円	経常収益(イ)	0 千円	
	営業費用	0 千円	営業外費用	0 千円	経常費用(ロ)	0 千円	
	営業損益	0 千円	営業外損益	0 千円	経常損益	0 千円	
補助対象期間の前々年度の実車走行キロ(ハ)		0.0 km		経常収支率		0.00%	
		乗 合 バ ス 事 業 ・ 自 家 用 有 償 旅 客 運 送					
基準期間の前年度の損益状況	営業収益	0 千円	営業外収益	0 千円	経常収益(イ')	0 千円	
	営業費用	0 千円	営業外費用	0 千円	経常費用(ロ')	0 千円	
	営業損益	0 千円	営業外損益	0 千円	経常損益	0 千円	
基準期間の前年度の実車走行キロ(ハ')		0.0 km		経常収支率		0.00%	
		乗 合 バ ス 事 業 ・ 自 家 用 有 償 旅 客 運 送					
基準期間の前々年度の損益状況	営業収益	0 千円	営業外収益	0 千円	経常収益(イ'')	千円	
	営業費用	0 千円	営業外費用	0 千円	経常費用(ロ'')	千円	
	営業損益	0 千円	営業外損益	0 千円	経常損益	千円	
基準期間の前々年度の実車走行キロ(ハ'')		0.0 km		経常収支率		0.00%	

(補助対象事業者の「基準期間※を最終年度とする連続した過去3年間」における実車走行キロ当たり経常費用等)

補助ブロック名	補助対象事業者の実車走行 キロ当たり経常費用 (基準期間の前々年度) $\alpha = a$	補助対象事業者の実車走行 キロ当たり経常費用 (基準期間の前年度) $\alpha' = b$	補助対象事業者の実車走行 キロ当たり経常費用 (基準期間) $\alpha'' = c$	平均増減率 $\frac{((b \div a) - 1) + ((c \div b) - 1)}{2} = d$
沖縄	円 銭	円 銭	円 銭	%
	円 銭	円 銭	円 銭	%

※「基準期間」とは、補助対象期間の前々年度の補助対象期間をいう。

2. キロ当たり補助対象経常費用及び収益

補助ブロック名	補助対象事業者の実車走行 キロ当たり経常費用 $\alpha \times (1 + (d \div 2))2 = \alpha$	地域キロ当たり 標準経常費用 β	キロ当たり経常費用 α と β のいずれか少ない額 α	キロ当たり経常収益 $\alpha \div \alpha$
沖縄	258円 60銭 円 銭	196円 41銭 円 銭	196円 41銭 円 銭	円 銭 円 銭

3. 補助対象系統ごとに要する費用、負担者とその負担割合

補助ブロック名	申請番号	運行系統名	運行系統			計画運行日数	計画運行回数	系統キロ程		補助ブロック外 乗入部分のキロ程		同一補助ブロック 市区町村外乗入 部分のキロ程		補助ブロック外乗り入れ部分 及び同一補助ブロック市区町村外乗り入れ部分以外のキロ程の比率 (チー(リ+ヌ))÷チニル	計画実車走行キロ ヲ
			起点	主な 経由地	終点			往 . Km 復 . Km	(平均) Km	往 . Km 復 . Km	(平均) Km	往 . Km 復 . Km	(平均) Km		
沖縄	2	伊集普天間線②	ハートライフクリニック	北浜-新垣	普天間	175日	175回	往 . Km 復 . Km	(平均) 8.6 Km	往 . Km 復 . Km	(平均) Km	往 . Km 復 . Km	(平均) Km	%	1,505.0 km
	3	久場琉大線①	久場	役場前-琉大東口	琉大北口	175日	175回	往 . Km 復 . Km	(平均) 7.4 Km	往 . Km 復 . Km	(平均) Km	往 . Km 復 . Km	(平均) Km	%	1,295.0 km
	5	伊集回り線	伊集	吉の浦会館-普天間-南上原	伊集	365日	1,825回	往 . Km 復 . Km	(平均) 25.5 Km	往 . Km 復 . Km	(平均) Km	往 . Km 復 . Km	(平均) Km	%	46,537.5 km
合計		系統				日	回	往 . Km 復 . Km	Km	往 . Km 復 . Km	Km	往 . Km 復 . Km	Km	%	km

補助ブロック名	申請番号	補助対象経常費用の見込額 $\alpha \times \alpha$ 以下の額:ワ	補助対象系統のキロ当たり 経常収益 (ノの額) ト	補助対象系統の経常収 益の見込額 $\alpha \times \alpha$ 以上の額:カ	補助対象経常費用から経常収益を控除し た額 ワーカ=ヨ	ヨのうち補助ブ ロック外乗入部 分及 び同一補助 ブロック市区町 村外乗 入部分以 外に係るもの $\alpha \times \alpha = \alpha$	補助対象経費 ツ	補助対象経費の1/2 $\alpha \times 1/2 = \alpha$	国庫補助上限額 ナ	国庫補助金 内定申請額 (ネ又はナのうちのい ずれか少 ないほうの額) ラ
沖縄	2	295,597 円	円 銭	54,324 円	241,273 円	円	241 千円	121 千円		
	3	254,351 円	円 銭	46,744 円	207,607 円	円	208 千円	104 千円		
	5	9,140,430 円	円 銭	1,684,410 円	7,456,020 円	円	7,456 千円	3,728 千円		
合計		9,690,378 円	円 銭	1,785,478 円	7,904,900 円	円	7,905 千円	3,952 千円	千円	3,952 千円

補助ブロック名	申請番号	経常費用から経常収益を控除した額 $\alpha \times \alpha - \alpha = \alpha$	損失額から国 庫補助額を控 除した額 $\alpha - \alpha = \alpha$	ウの負担者とその負担割合									
				都道府県		市区町村		その他の者		事業者自己負担		「その他の者」の具 体的概 要	
				負担額	負担割合	負担額	負担割合	負担額	負担割合	負担額	負担割合		
沖縄	2	334,877 円											
	3	288,149 円											
	5	10,350,420 円											
合計		10,973,446 円	7,020,995 円										

(補助対象系統のキロ当たり経常収益の算定表)

補助ブロック名	申請番号	補助対象系統の実車走行キロ当たり経常収益 (基準期間の前々年度) e	補助対象系統の実車走行キロ当たり経常収益 (基準期間の前年度) f	補助対象系統の実車走行キロ当たり経常収益 (基準期間※) g	平均増減率 $\frac{(((f \div e) - 1) + ((g \div f) - 1))}{2} = h$	補助対象系統の実車走行キロ当たり経常収益 $g \times (1 + (h \div 2))2 = \alpha$
		円 銭	円 銭	円 銭	%	
		円 銭	円 銭	円 銭	%	
		円 銭	円 銭	円 銭	%	
		円 銭	円 銭	円 銭	%	

表5 地域公共交通確保維持改善事業を行う地域の概要

市町村名	沖縄県中城村
------	--------

人口	
人口集中地区以外	17,680 人
交通不便地域	17,680 人

交通不便地域の内訳

人口	対象地区	根拠法
17,680 人	村全域	沖縄振興特別措置法に規定する沖縄県の区域

(1)記載要領

1. 人口は最新の国勢調査結果を基に記載すること。

※なお、実施要領等で別に定める場合は、それによること。

2. 「人口集中地区以外」の欄は、国勢調査結果により設定された人口集中地区に該当しない地区の人口を記載すること。

3. 「交通不便地域」の欄は、過疎地域自立促進特別措置法に基づく過疎地域（過疎地域とみなされる市町村、過疎とみなされる区域を含む。）、離島振興法に基づく離島振興対策実施地域、半島振興法に基づく半島振興対策実施地域、山村振興法に基づく振興山村に該当する地域の人口及び実施要領(2. (1)⑫)に基づき地方運輸局長等が指定する交通不便地域の人口の合計(重複する場合を除く)を記載すること。

4. 「対象地区」の欄には、当該市町村の一部が上記3. に掲げる法律(根拠法)に基づき地域指定されている場合に、根拠法ごとに当該区域の旧市町村名等を記載すること。また、地方運輸局長等が指定する交通不便地域が存在する場合には、該当する区域名を記載すること。

5. 「根拠法」の欄は、交通不便地域を地方運輸局長等が指定した場合は、「局長指定」と記載すること。

(2)添付書類

1. 人口集中地区以外の地区及び交通不便地域の区分が分かる地図

(ただし、全域が交通不便地域となる場合には省略可)

中城村生活交通ネットワーク計画 護佐丸バス運行事業

1. 背景と目的

現在の中城村の公共交通環境は、民間バス事業者による路線バスの運行および主に村西側の台地地区の小中学生を対象とした通学バスの運行等、村民の移動手段の確保に向けた施策等を展開している。

しかし、これら公共交通の発達は十分でなく、特に路線バスは本村と村外を結ぶ路線として設定されており、村内における移動には不便な状況にある。特に傾斜度が高く地形的に分断されている村東側の平坦地区と西側の台地地区間を結ぶ路線の確保や、平坦地区の北浜・南浜地区、台地地区の登又・新垣・北上原地区などの公共交通空白地域における村内移動手段の確保、村内児童生徒の通学手段の確保が課題となっている。

このような状況やこれまでの調査等を踏まえ、「交通弱者が、便利で利用しやすい公共交通体系を構築し、健やかに暮らせる環境の創出」を目指すことを基本目標に、高齢者をはじめとする交通弱者の村内移動の円滑化及び路線バスとの接続による行動範囲の拡大と、平坦地区北端、南端、公共交通空白地域から通学する小中学生や近隣市町村へ通学する高校生の通学手段を中城村コミュニティバス「護佐丸バス」運行で担う必要がある。

2. これまでの経緯

「護佐丸バス」の導入に向け平成 24 年度より調査等の取組みを始めており、平成 25 年度には実際にバスを約 2 週間運行しての実証調査の実施、平成 26 年度には約 1 か月半の実証運行を実施し、その都度ルートやバス停位置等を見直してきた。下記にその概要を記す。

表1 護佐丸バス導入に向けた取組み概要

<p>平成25年度(H26.1.9~1.22) 「護佐丸バス」実証調査</p>	<p>○定期定路型コミュニティバスの無償運行</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ハートライフ普天間線…ハートライフ病院～伊集～北浜～津覇～吉の浦会館～奥間～新垣～登又～普天間りうぼう ▶第二久場琉大病院線…ひが皮膚科クリニック前～添石～役場～吉の浦会館～奥間～南上原～琉大附属病院 <p>○交通弱者の移動ニーズに合わせ、平坦地区と台地地区をX字状に結び、近隣市町の医療施設や商業施設を経由</p> <p>○公共交通空白地域となっている北浜地区周辺、新垣地区、登又地区等を経由し公共交通空白地域をカバー</p> <p>○南浜地区を除く各字に1つ以上のバス停を設置、今後近辺に図書館が整備される吉の浦会館を乗り継ぎ拠点と位置付けた乗り継ぎしやすい時刻の設定</p> <p>▶平日6:45～18:30、休日7:30～18:30</p> <p>⇒早朝や夕方の通学時間帯では小学生の利用数が特に多い一方で、日中の高齢者の利用数は少なかった</p> <p>⇒平坦地区と台地地区の往来での利用数は多かった</p> <p>⇒利用者からは「行きたい場所へ行きやすくなった」、「村を網羅しており良いルートと感じた」との意見が多かった</p>
<p>平成26年度(H27.1.13~2.28) 「護佐丸バス・護佐丸タクシー」実証運行</p>	<p>○定期定路型コミュニティバスの運行（最終5日間有償）</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶H25 実証調査より時間帯で利用者層に相違が見られたことから、時間帯別でルートを変更した ▶朝便（平日のみ、6:50～8:00）…伊集普天間線、久場琉大線：通学の時間短縮を図るため路線長を短くした ▶日中便（平日10:00～18:00、休日9:30～17:00）…伊集回り線、久場回り線：村北端または南端を起終点とし、台地地区、普天間りうぼうを経由、起終点へ戻るルートとなっており、両端を結ぶ路線は確保しなかった ▶夕方便（平日のみ、19:00～20:00）…伊集北上原線、久場新垣線：中学生の部活後の利用を見込み、平坦地区から台地地区への送迎を重視した <p>○日中便の路線長が長くなっており、時間短縮を図るため利用の少なかった琉大病院や浜地区等のバス停を廃止または位置変更した</p> <p>⇒有償になったことで、伊集・和宇慶地区小学生の利用減少率が約7割と大幅に減少したが、全体で見ると約1.5割程度の減少率に収まった</p> <p>⇒夕方便は利用者がほとんどいなかった</p> <p>⇒アンケートでは利用者の約7割が満足と回答していた</p> <p>⇒一方で、高齢者からは路線がわかりにくい等の意見も直接電話であった</p> <p>○合わせて定期自由経路型デマンドタクシーの有償運行を実施。</p>

3. 「護佐丸バス」運行事業

これまでの取組みや検討を踏まえ、「護佐丸バス」運行事業は下記の通りとする。

(1) 運行ルート

運行ルートは基本的に H26 実証運行のルートを採用するが、日中便については目的地へ行かない路線に間違えて乗ってしまうなど経路がわかりにくいという課題を解決する必要がある。主な利用者が高齢者等となっている日中便においては、わかりやすくどこへでも行ける路線を確保するため、村全域を一周するルートで逆回りとする。なお、平成 28 年度会館予定の護佐丸資料図書館が隣接する吉の浦会館を起終点に、住宅地となっているサンヒルズタウン、県営団地、老人クラブの活動拠点である老人福祉センターを経由し、村内移動の円滑化を図る。

朝便については久場琉大線 2 便目を中部商業高校まで延長し、高校生の利用促進を図る。夕方便では利用者がほとんどいなかったため、廃止とする。

①朝便（4 頁、図 1 参照）

朝便の主な利用者は村内小中学生、村外高校へ通学する高校生と想定し、各学校の通学時間を考慮して、平坦地区から琉大方面、宜野湾市普天間方面の計 2 ルートの運行を設定する。

《朝便のルート概要と所要時間》

- ①伊集普天間線【路線長:8.6km、所要時間:約 30 分】:伊集を始点とし、平坦地区南側の公共交通空白地域を経由、津覇小学校を経由、奥間から台地地区へ向かい高速道路バス停付近を経由し、普天間りうぼうまで運行
- ②伊集琉大線【路線長:(1 便)7.4km、(2 便)8.4km、所要時間:約 30~40 分】:ひが皮膚科クリニック前を始点とし、中城小学校、役場を村道で経由し、奥間から南上原へ、琉大構内の琉大北口まで運行、2 便目は中部商業高校前まで運行

②日中便（5~6 頁、図 2・3 参照）

日中では乗り継ぎの解消、台地地区の縦断を確保するため、村全域を周回するかたちで計 2 ルート運行し、概ね各字、村外では普天間りうぼうを経由する。

《日中便のルート概要と所要時間》

- ①伊集回り線【路線長:25.5km、所要時間:約 1 時間 15 分】:ハートライフクリニックを始点とし、平坦地区南側の公共交通空白地域を経由、津覇小学校、役場を経由し、普天間りうぼう、台地地区を縦断し、奥間からハートライフクリニックまで運行
- ②久場回り線【路線長:23.1km、所要時間:約 1 時間 10 分】:中城モールを始点とし、中城小学校、役場を村道で経由し、奥間から琉大北口、台地地区を縦断して普天間りうぼう、登又から役場、中城小学校を経由し中城モールまで運行

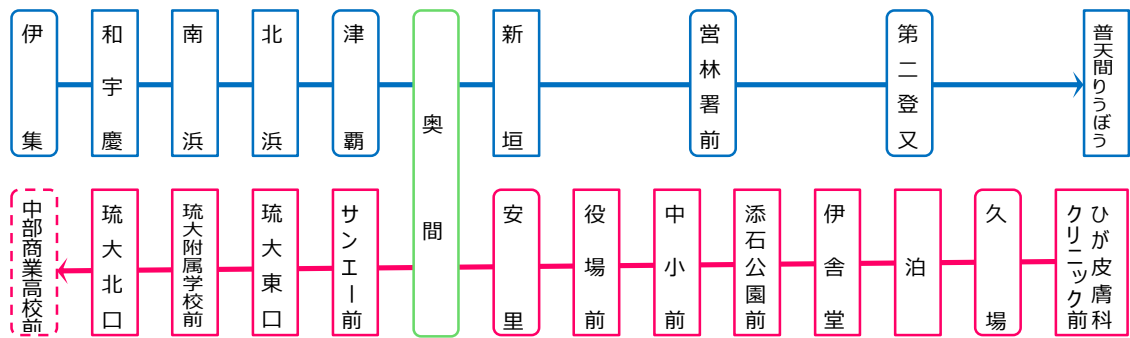
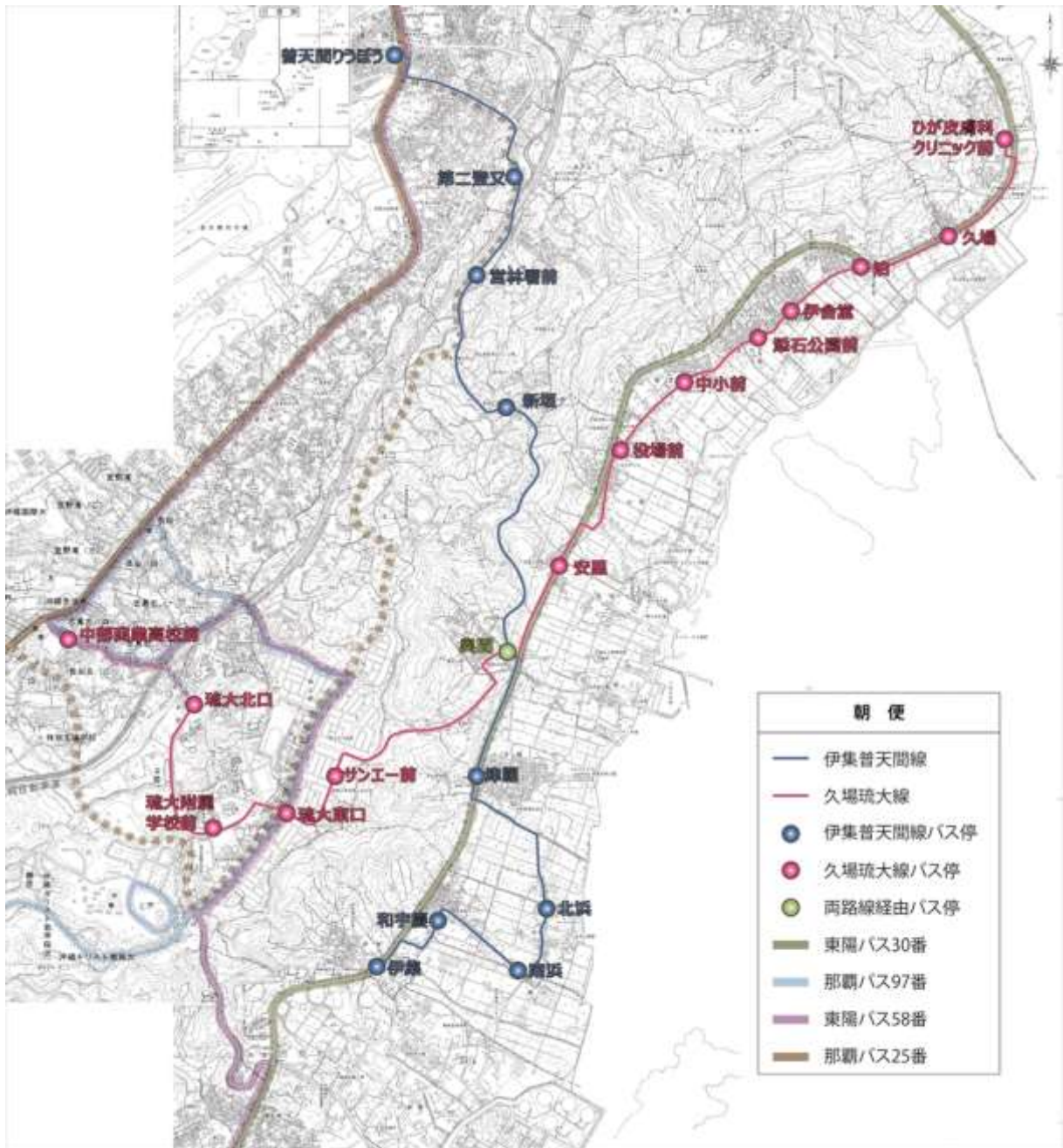


図1 朝便（伊集普天間線、久場琉大線）ルート図

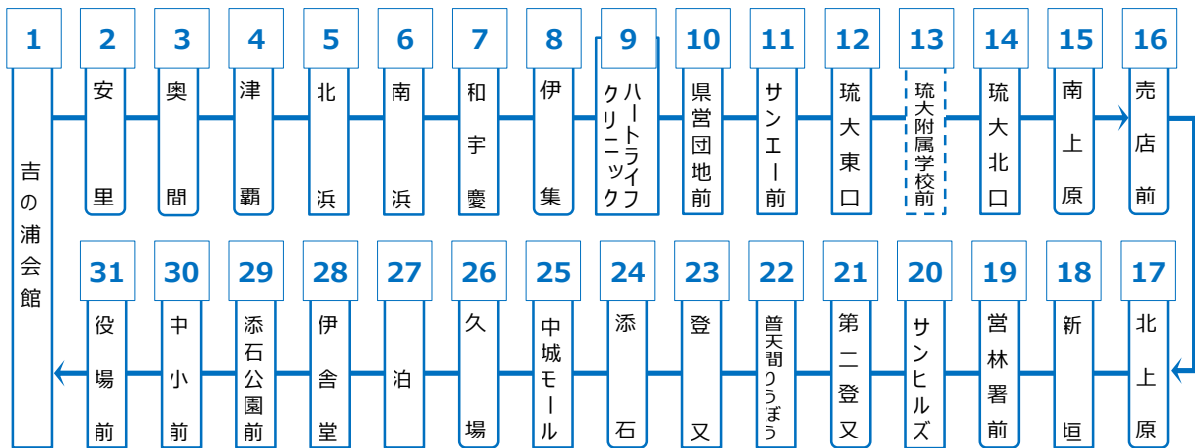
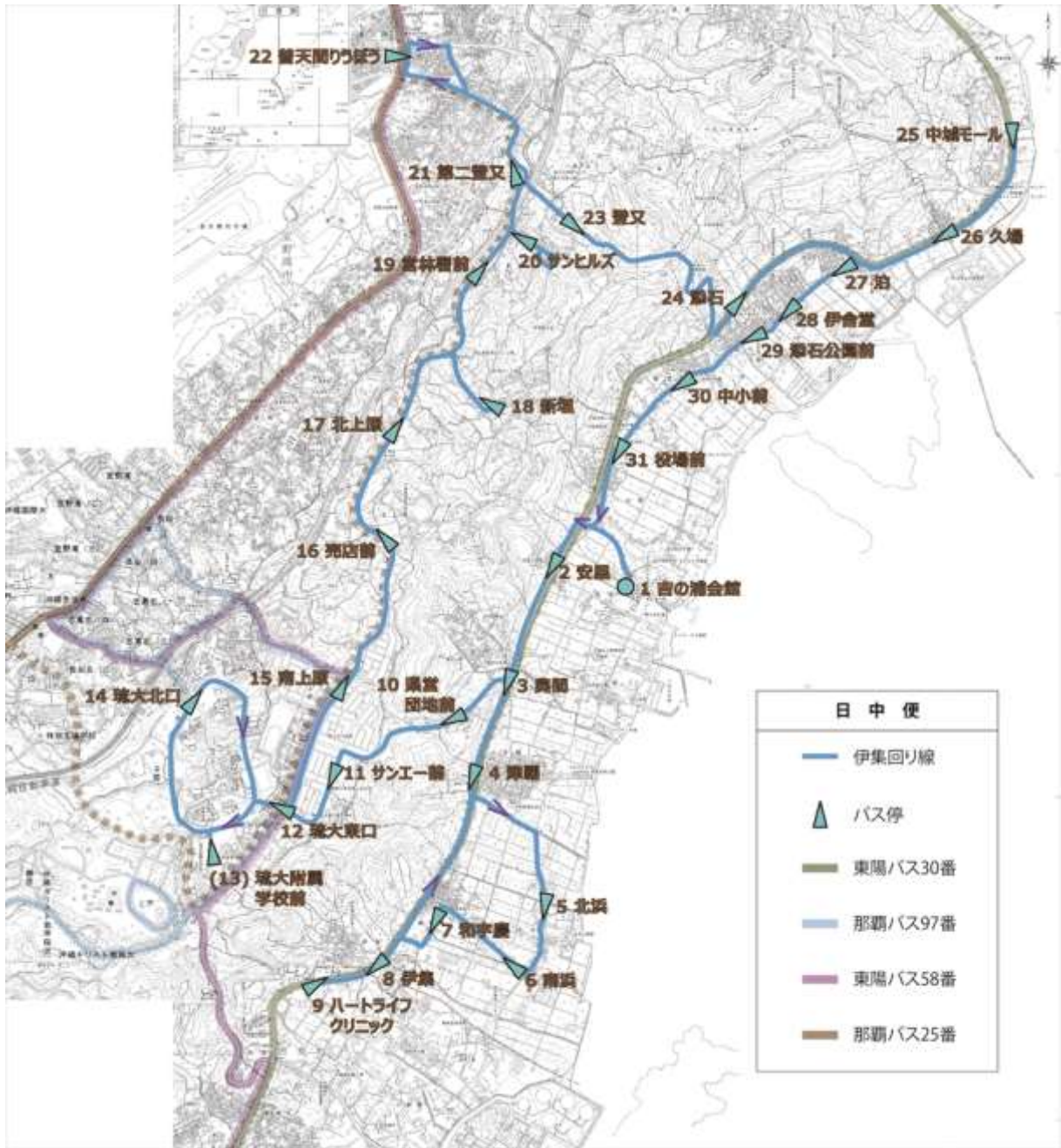


図2 日中便 伊集回り線 ルート図

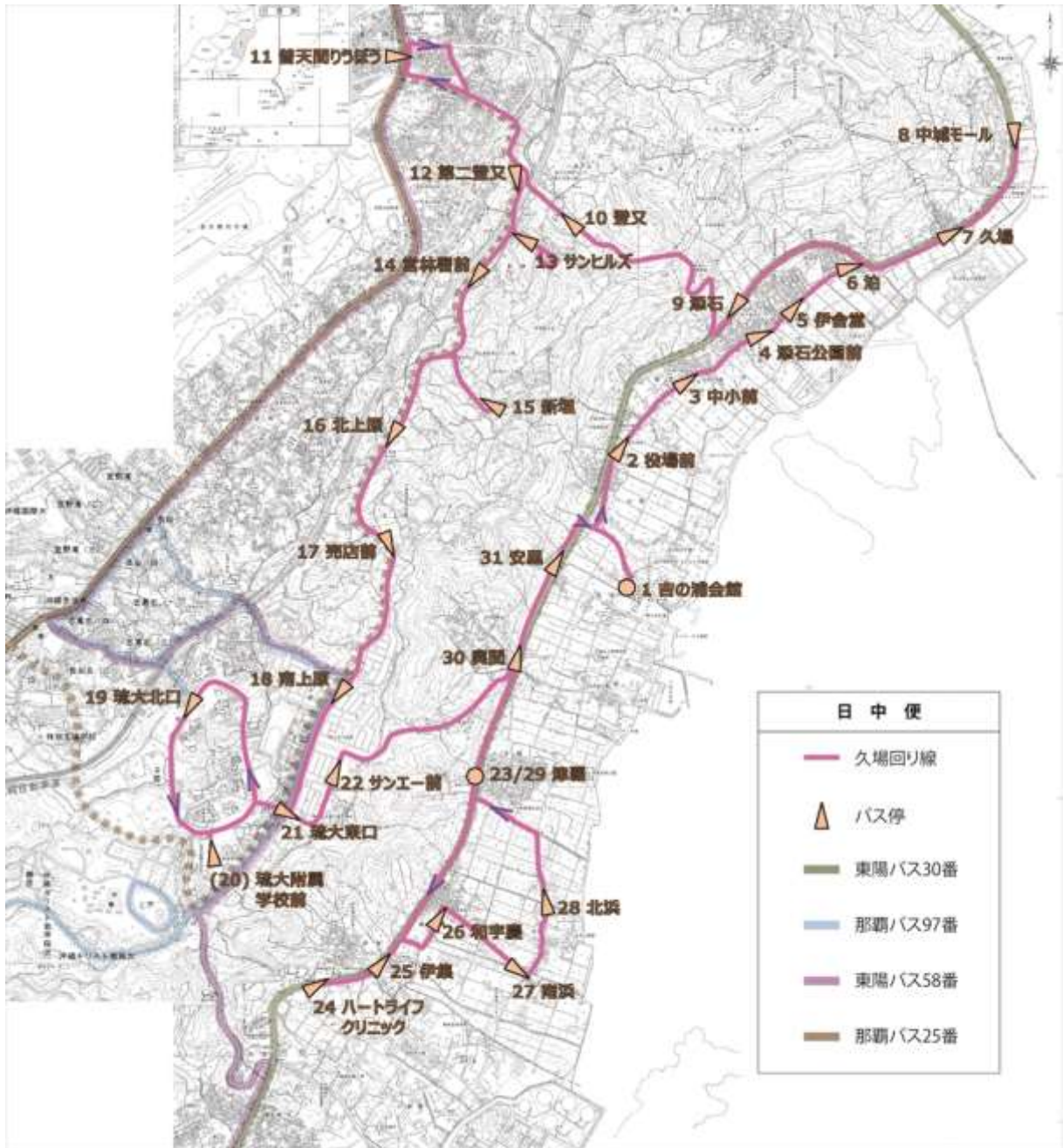
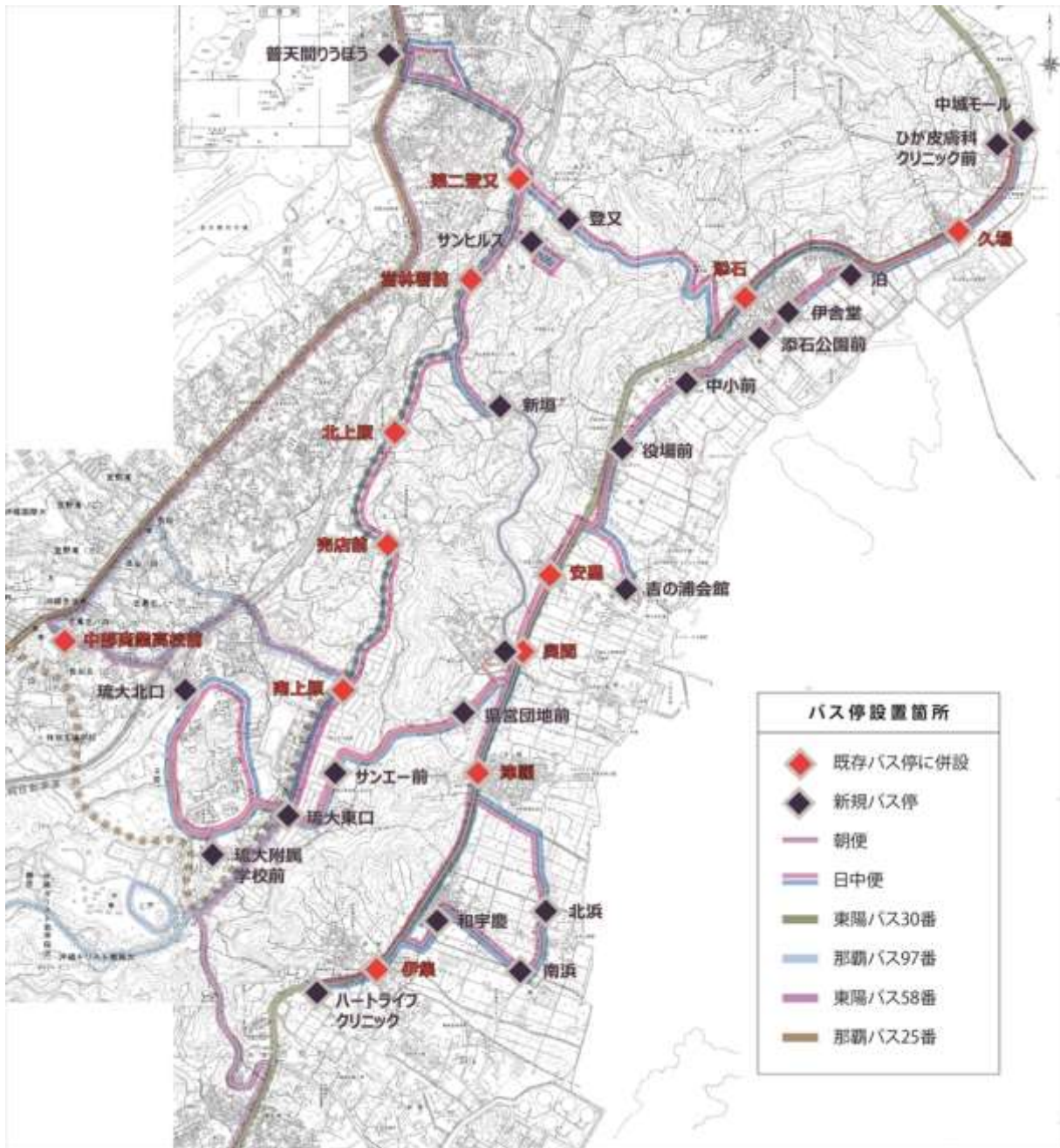


図3 日中便 久場回り線 ルート図



既存バス停に併設	新規バス停	合計
・ 12 箇所 (上下別 23 箇所)	・ 22 箇所 (上下別 34 箇所)	・ 34 箇所 (57 箇所)

図4 バス停設置箇所 配置図

(2) 運行車両

運行ルートでは幅員の狭い道路も運行することから、実証調査で使用したマイクロバス(全長 7m・全幅 2.1m)程度、もしくはそれ以下の大きさの車両が望ましい。また、登校時には30名以上の利用者がいたことから、容量も求められる。日中の主な利用者が高齢者だったことから、低床またはノンステップであることが望ましい。

よって、小型(全長 7m 以下)の低床で、定員 30~40 名乗車可能なバスを導入する。なお、車両は村が購入済みである。

予備車両は**運行事業者が車両**を準備する。

《運行車両の概要》

- 車両名:ポンチョ
- 規格:小型バス(全長 7m 以下、全幅 2.1m 以下)
- 定員:30~40 名
- 導入台数:2 台(予備車両は運行事業者所有車両とする)

《車両外観のイメージ》



(3) 運行時間・頻度・運行日

①朝便

朝便は、普天間高校早朝授業開始時間にあわせるため 6 時 50 分から運行を開始し、8 時 20 分までとする。頻度は概ね 1 時間に 1 本、計 2 便を運行する。ただし、土日祝日、1 月 1 日～3 日及び学校の長期休み期間は運休とする。久場琉大線の 1 便目は琉大北口まで、2 便目は中部商業高校前まで運行する。

なお、西原高校へは久場琉大線の琉大東口から那覇バス 97 番に乗り継ぎできるように時刻設定している。

②日中便

運行時間は 9 時から 17 時 50 分で、昼休み時間を除き頻度が約 1 時間半に 1 本、計 5 便である。琉大附属学校前は 4 便と 5 便のみ経由する。運行日は平日祝日とも同様に運行する。ただし、1 月 1 日～3 日は運休とする。

《運行時間・頻度・運行日》

●朝便…6:50～8:30、1 時間に 1 本(計 2 便)、土日祝日・1 月 1 日～3 日・学校長期休み中は運休

●日中便…平日・土日祝日:9:00～17:50、1 時間半に 1 本(計 5 便)、1 月 1 日～3 日は運休

※参考資料①に時刻表を示す

(4) 運賃

運賃は分かりやすさを重視し、一律制とする。

小中学生の運賃は現行通学バスと整合をはかるため、小学生は 50 円、中学生は 100 円とする。また 65 歳以上の高齢者、障害者も 100 円、一般は 200 円とする。6 才未満の幼児は小学生以上と同乗の場合、小学生以上の方 1 人につき 1 人無料、2 人目からは小学生料金を徴収する。6 才未満の幼児が 1 人で乗車した場合は小学生料金を徴収する。

一般の利用促進を図るため 1 回あたり実質 150 円で利用できる回数券を発行する。

《運賃》

●小学生…50 円

●中学生、65 歳以上、障害者…100 円

●一般…200 円

●回数券の発行

※6 才未満の幼児については、小学生以上の方と同乗の場合、小学生以上の方 1 人につき 1 人無料、2 人目からは小学生料金を徴収する。6 才未満の幼児 1 人で利用する場合は小学生料金を徴収する。

(5) 運行主体

中城村内において路線バスを運行している東陽バス株式会社と那覇バス株式会社へ運行委託する予定である。

(6) コスト試算 ※参考資料②5～8 ページに詳細を示す

H26 実証運行の実績を基に、平成 27 年度から 29 年度の利用者数の目標及び収支を試算する。

①年間利用数の目標

i. (朝便) 伊集普天間線の日平均利用者数目標

H26 実証運行の利用実績は表 2 の通りであった。有償になったことで小学生の利用が大幅に減少しており、無償期間と比べ約 7 割減となった。継続的な運行と保護者への呼びかけにより利用促進を図り、無償期間中の 5 割の利用を見込んで設定すると日平均利用数が 7.0 人/日となる。

一般は主に高校生の利用であった。H26 実証運行実施期間が 1 月下旬～2 月末であったため、高校 3 年生の利用がほとんどなかったと思われる。回数券の発行による料金負担の軽減により有償期間中の最も多い利用者数を目標とし、高校 3 年生の利用も加味して設定すると日平均利用数が 10.5 人/日となる。

中学生については通学には不向きな路線となっているため、利用数増加が見込めず、また高齢者については無償期間中よりほとんど利用がみられず、有償化による変化もなかったことから利用数増加は見込めないと考える。

以上より、伊集普天間線の日平均利用者数の合計は 18.3 人/日となる。

表 2 伊集普天間線の H26 実証運行実績日平均及び目標日平均

	無償期間日平均	有償期間日平均	目標日平均	備考
小学生	14.0 人/日	2.8 人/日	7.0 人/日	無償期間中の 5 割を想定
中学生	0.7 人/日	0.6 人/日	0.6 人/日	
一般	6.8 人/日	3.2 人/日	10.5 人/日	有償期間中最も多い利用者数(7人)に高校3年生の利用を加味(1.5倍)して目標とする
高齢者	0.2 人/日	0.2 人/日	0.2 人/日	
合計	21.7 人/日	6.8 人/日	18.3 人/日	

ii. (朝便) 久場琉大線の日平均利用者数の目標

有償化による利用の変化は小学生や高齢者ではほとんどみられなかったものの、一般では約 8 割減となった。H26 実証運行のルートでは普天間高校や中部商業高校等へ行くにも乗継が必要であったことから、伊集普天間線と比べ利用者数が少ないほか、有償になってから利用数が大幅に減ったと考えられる。

中部商業高校まで路線を延長することにより、伊集普天間線と同様まで利用者数が伸びると想定し算出すると、一般の日平均利用数は 8.0 人/日となる。

中学生については、路線バスも確保されていることから、これ以上の利用者増加は見込まないこととする。

以上より、久場琉大線の日平均利用者数の合計は 37.2 人/日となる。

表 3 久場琉大線の H26 実証運行実績日平均及び目標日平均

	無償期間日平均	有償期間日平均	目標日平均	備考
小学生	22.8 人/日	22.6 人/日	22.6 人/日	
中学生	9.3 人/日	6.6 人/日	6.6 人/日	
一般	2.1 人/日	0.4 人/日	8.0 人/日	伊集普天間線と同様まで利用者数が上がると想定（村在住普天間高在学生約 85 人、中部商業高在学約 65 人を考慮）
高齢者	0.1 人/日	0.0 人/日	0.0 人/日	
合計	34.3 人/日	29.6 人/日	37.2 人/日	

iii. (日中便) 伊集回り線

伊集回り線平日の利用実績は表4の通りで、小中学生の利用に減少がみられたものの一般や高齢者の利用にはほとんど変化がなかった。

路線変更により、老人福祉センターを経由することから、H26 実証運行よりも高齢者の利用数が見込めると考えられ、1日あたり2人が利用すると想定すると、高齢者の日平均利用者数は7.8人/日となる。

また、回数券の発行により一般の利用者の増加を有償期間中の最も多い利用者数を目標にすると、一般の日平均利用者数は11.0人/日となる。

以上より、伊集回り線平日の日平均利用者数は24.4人/日となる。

休日については、有償期間のデータが1日分しかなく精度が低いため、無償期間の平日と休日の利用割合を加味して表5のように設定する。なお、休日は老人福祉センターでの活動があまりないため、高齢者の利用で増加させた分は見込んでいない。以上より、伊集回り線休日の日平均利用者数は18.0人/日となる。

表4 伊集回り線(平日)のH26実証運行実績日平均及び目標日平均

	無償期間日平均	有償期間日平均	目標日平均	備考
小学生	7.3人/日	4.0人/日	4.0人/日	
中学生	1.9人/日	1.6人/日	1.6人/日	
一般	7.3人/日	7.2人/日	11.0人/日	有償期間中の最も多い利用者数(11人)を目標とする
高齢者	5.5人/日	5.8人/日	7.8人/日	老人福祉センターへの利用で2人増加を想定
合計	22.0人/日	18.6人/日	24.4人/日	

表5 伊集回り線(休日)の日平均利用者数の設定

	無償期間 休日利用割合	有償期間 平日の日平均	有償期間 休日の日平均	備考
小学生	0.4	4.0人/日	1.6人/日	
中学生	2.3	1.6人/日	3.7人/日	休日利用割合は部活での利用で増えたと考えられる
一般	0.8	11.0人/日	9.1人/日	有償期間平日の日平均は有償期間中の最も多い利用者数(11人)を目標とする
高齢者	0.6	5.8人/日	3.6人/日	
合計	—	22.4人/日	18.0人/日	

iv. (日中便) 久場回り線

伊集回り線平日の利用実績は表6の通りで、高齢者を除き利用が減少しており、特に小学生の減少が大きかった。

久場回り線についても、伊集回り線同様、路線変更により老人福祉センターを經由することから、H26実証運行よりも高齢者の利用数が見込めると考えられ、1日あたり2人が利用すると想定すると、高齢者の日平均利用者数は10.6人/日となる。

また、回数券の発行により一般の利用者の増加を有償期間中の最も多い利用者数を目標にすると、一般の日平均利用者数は7.0人/日となる。

以上より、久場回り線平日の日平均利用者数は28.4人/日となる。

休日についても伊集回り線同様に算出すると表6のようになり、久場回り線休日の日平均利用者数は18.0人/日となる。

表6 久場回り線(平日)のH26実証運行実績日平均及び目標日平均

	無償期間日平均	有償期間日平均	目標日平均	備考
小学生	12.9人/日	7.0人/日	7.0人/日	
中学生	6.6人/日	3.8人/日	3.8人/日	
一般	7.4人/日	3.8人/日	7.0人/日	有償期間中の最も多い利用者数(7人)を目標とする
高齢者	3.3人/日	8.6人/日	10.6人/日	老人福祉センターへの利用で2人増加を想定
合計	30.2人/日	23.2人/日	28.4人/日	

表7 久場回り線(休日)の日平均利用者数の設定

	無償期間 休日利用割合	有償期間 平日の日平均	有償期間 休日の日平均	備考
小学生	0.3	7.0人/日	2.2人/日	
中学生	0.5	3.8人/日	1.8人/日	
一般	0.9	7.0人/日	6.1人/日	有償期間平日の日平均は有償期間中の最も多い利用者数(11人)を目標とする
高齢者	1.1	8.6人/日	9.2人/日	
合計	—	26.4人/日	18.0人/日	

以上を踏まえ、登校日を 175 日、登校日以外の平日を 69 日、休日を 121 日として年間利用者数を算出すると、表 8 のようになる。ただし、登校日以外の平日は、伊集回り線と久場回り線のための運行であり、小学生、中学生と一般は休日の利用状況であると想定し算出した。

以上より、年間利用数は約 26,400 人/年である。これを平成 27 年度の目標値とする。

表 8 平成 27 年度年間利用者数の目標

		小学生 日平均	中学生 日平均	一般 日平均	高齢者 日平均	利用者数 合計※
登校日 175 日	伊集普天間線	7.0 人/日	0.6 人/日	10.5 人/日	0.2 人/日	3,206 人
	久場琉大線	22.6 人/日	6.6 人/日	8.0 人/日	0.0 人/日	6,510 人
	伊集回り線	4.0 人/日	3.8 人/日	11.0 人/日	7.8 人/日	4,270 人
	久場回り線	7.0 人/日	3.8 人/日	7.0 人/日	10.6 人/日	4,970 人
登校日以外 平日 69 日	伊集回り線	1.6 人/日	3.7 人/日	9.1 人/日	7.8 人/日	1,535 人
	久場回り線	2.2 人/日	1.8 人/日	6.1 人/日	10.6 人/日	1,426 人
休日 121 日	伊集回り線	1.6 人/日	3.7 人/日	9.1 人/日	3.6 人/日	2,180 人
	久場回り線	2.2 人/日	1.8 人/日	6.1 人/日	9.2 人/日	2,327 人
年 間 利 用 者 数					26,423 人/年	

※利用者数合計は路線毎の日平均の合算に日数を乗算した値である。

平成 27 年度の年間利用者数の目標を基準に、高校生の利用促進を図り、年度毎に高校生の利用が 5 人/日増加すると想定すると、平成 28、29 年度の年間利用者数の目標は表 9 のようになる。年間利用者数の目標は平成 28 年度が約 27,300 人/年、平成 29 年度が 28,200 人/年となる。

表 9 平成 27～29 年度の年間利用者数の目標

単位：人/年

	伊集普天間線	久場琉大線	伊集回り線	久場回り線	合計
平成 27 年度	3,206	6,510	7,985	8,723	26,423
平成 28 年度	3,643	6,948	7,985	8,723	27,298
平成 29 年度	4,081	7,385	7,985	8,723	28,173

②費用の総額及び収支率

現時点で運行事業者からいただいている見積をもとに、経常経費を試算するとバス 2 台の運行で年間約 2,620 万円である。経常経費については今後運行事業者と調整を行い改めて算出する。

①年間利用者数の目標より、経常収益を算出する。運賃設定は小学生が 50 円、中学生・高齢者が 100 円、一般が 200 円、回数券は 150 円とし、回数券は一般の 2 割が利用すると想定して算出すると表 1 0 のようになる。

以上より、経常収益は平成 27 年度が約 308.6 万円/年、平成 28 年度が約 325.2 万円/年、平成 29 年度が約 341.8 万円/年となる。

表 1 0 経常収益の試算

単位：円/年

	小学生	中学生	一般	一般(回数券)	高齢者	経常収益
平成 27 年度	391,227	325,477	1,484,656	278,373	606,507	3,086,241
平成 28 年度	391,227	325,477	1,624,656	304,623	606,507	3,252,491
平成 29 年度	391,227	325,477	1,764,656	330,873	606,507	3,418,741

以上を踏まえ、経常損益及び収支率は以下の表 1 1 のようになる。

表 1 1 経常損益及び収支率

単位：円/年または%

	経常経費 (想定)	経常収益	経常損益	収支率	負担額
平成 27 年度	26,273,082	3,086,241	23,186,841	11.7%	15,428,672
平成 28 年度	26,205,698	3,252,491	22,953,207	12.4%	15,302,026
平成 29 年度	26,205,698	3,418,741	22,786,957	13.0%	15,218,901

生活交通ネットワーク計画 「護佐丸バス」 運行事業 護佐丸バス時刻表

伊集回り線 時刻表

停留所	3便	4便	5便	6便	7便
吉の浦会館	9:00	10:38	13:01	14:39	16:19
安里(国)	9:03	10:41	13:04	14:42	16:22
奥間(国)	9:04	10:42	13:05	14:43	16:23
津覇(国)	9:05	10:43	13:06	14:44	16:24
北浜	9:09	10:47	13:10	14:48	16:28
南浜	9:11	10:49	13:12	14:50	16:30
和宇慶	9:13	10:51	13:14	14:52	16:32
伊集(国)	9:15	10:53	13:16	14:54	16:34
ハートライフクリニック	9:17	10:55	13:18	14:56	16:36
県営団地前	9:22	11:00	13:23	15:01	16:41
サンエー前	9:24	11:02	13:25	15:03	16:43
琉大東口	9:25	11:03	13:26	15:04	16:44
琉大附属学校前				15:07	16:47
琉大北口	9:28	11:06	13:29	15:09	16:49
南上原(県)	9:34	11:12	13:35	15:15	16:55
商店前(県)	9:37	11:15	13:38	15:18	16:58
北上原(県)	9:39	11:17	13:40	15:20	17:00
新垣(県)	9:42	11:20	13:43	15:23	17:03
営林署前(県)	9:45	11:23	13:46	15:26	17:06
サンヒルズ	9:48	11:26	13:49	15:29	17:09
第二登又(県)	9:51	11:29	13:52	15:32	17:12
普天間りうぼう	9:56	11:34	13:57	15:37	17:17
登又	10:01	11:39	14:02	15:42	17:22
老人センター前	10:06	11:44	14:07	15:47	17:27
中城モール	10:11	11:49	14:12	15:52	17:32
久場(国)	10:14	11:52	14:15	15:55	17:35
泊	10:17	11:55	14:18	15:58	17:38
伊舎堂	10:18	11:56	14:19	15:59	17:39
添石	10:19	11:57	14:20	16:00	17:40
中小前	10:20	11:58	14:21	16:01	17:41
役場前	10:21	11:59	14:22	16:02	17:42
吉の浦会館	10:23	12:01	14:24	16:04	17:44

久場回り線 時刻表

停留所	3便	4便	5便	6便	7便
吉の浦会館	9:00	10:39	13:03	14:42	16:21
役場前	9:03	10:42	13:06	14:45	16:24
中小前	9:04	10:43	13:07	14:46	16:25
添石	9:05	10:44	13:08	14:47	16:26
伊舎堂	9:06	10:45	13:09	14:48	16:27
泊	9:07	10:46	13:10	14:49	16:28
久場(国)	9:10	10:49	13:13	14:52	16:31
中城モール	9:13	10:52	13:16	14:55	16:34
老人センター前	9:18	10:57	13:21	15:00	16:39
登又	9:23	11:02	13:26	15:05	16:44
普天間りうぼう	9:28	11:07	13:31	15:10	16:49
第二登又(県)	9:33	11:12	13:36	15:15	16:54
サンヒルズ	9:35	11:14	13:38	15:17	16:56
営林署前(県)	9:38	11:17	13:41	15:20	16:59
新垣(県)	9:41	11:20	13:44	15:23	17:02
北上原(県)	9:44	11:23	13:47	15:26	17:05
商店前(県)	9:46	11:25	13:49	15:28	17:07
南上原(県)	9:49	11:28	13:52	15:31	17:10
琉大北口	9:53	11:32	13:56	15:35	17:14
琉大附属学校前	9:55	11:34	13:58	15:37	17:16
琉大東口	9:58	11:37	14:01	15:40	17:19
サンエー前	9:59	11:38	14:02	15:41	17:20
津覇(国)	10:04	11:43	14:07	15:46	17:25
ハートライフクリニック	10:06	11:45	14:09	15:48	17:27
伊集(国)	10:08	11:47	14:11	15:50	17:29
和宇慶	10:11	11:50	14:14	15:53	17:32
南浜	10:13	11:52	14:16	15:55	17:34
北浜	10:16	11:55	14:19	15:58	17:37
津覇(国)	10:21	12:00	14:24	16:03	17:42
奥間(国)	10:23	12:02	14:26	16:05	17:44
安里(国)	10:24	12:03	14:27	16:06	17:45
吉の浦会館	10:27	12:06	14:30	16:09	17:48